

東部日本語ボランティアネットワーク 第23回定例会議事録

2018年12月8日(土) 14:00~16:00 三島本町タワー

【参加者】12名 (のびっこ) 石井、(富士宮) 望月/杉本、(沼津) 虎谷/高澤、(裾野) 佐野、(伊豆の国) 久木野、(熱海) 趙、(函南) 香川、(SIR) 古橋、(GGA) 西村、(東京) 影山 (以上敬称略)

司会：虎谷さん・石井さん

自己紹介と情報交換

1. 国際交流協会 古橋さん

- ・今年ボランティアセミナーがない

協会が30周年 創立30周年記念イベント 2019年3月10日(日) 10-16時 @アザレア
シンポジウムと国際交流イベントが予定されている

表彰：のびっこと東部ネットもエントリーしているので、投票してください！

(賞金ももらえるらしい♥)

2. 富士宮市国際交流協会

杉本さん

6月からボランティアを始めた 「一応日本語教師です」

JICA 日系社会ボランティア 新宿の日本語学校→静岡へ 子育てを経て活動再開

望月さん (配布資料あり)

- ・日本語クラス ベトナムの実習生7-8名 毎週日曜日 1期10回×3期
8人の委員が交代制で10回/人を出ているが、マッチングで実習生がこななかったりする
- ・日本語の指導法等教えてほしい
- ・学校の中に入っている外国人児童への指導

取り出し：授業中取り出して果たしていいのか？ 当然のようにやっているが…。

視察で、貴船小学校で教員以外が取り出して教えていることが問題になった。

高学年や中学生はクラスにいても全く何もわからない→取り出しが効果的

- ・この報告書についても、市の国際交流課が検閲あり

「取り出し」という言葉を使わないなど…

18名(定数化)になったら、1名(非常勤：学び方指導員)をつける

取り出しが必要な生徒の数をあげてほしい(虎谷さん)

「日本語指導」も教員がしていこうという動きが少しずつ見えてきている。

3. 熱海国際交流協会

趙さん

日本語支援員としてやっている。日本語教師資格はなく補助をしている。

今年6月～ 1回/月 参加している

5-8名の受講生(配偶者が日本人の方 主婦と成人 子どもはいない)

日本語全く話せない人からそこそこできる人までレベル差がある。

中国人（3-4名）ベトナム・フィリピン・タイ（各1名）

日本語教師の有資格者は1名 他は支援員として携わっている（交通費程度 500円/会）

4. 伊豆の国市

久木野さん

日本語話そう会 一度だけ来た企業さんアライバイ作りの写真撮影後は来なくなった。

今は、ベトナム、インドネシアからの 技能実習生や、ALT関係の外国人が教室に来ている。

また、国際結婚家庭の中学生の生徒がきている。地区的には、伊豆の国市、伊豆市、函南町、沼津市。

芋ほりをしたり、書初めをしたり、日本語以外の活動も行っている。

なお、伊豆市の方が、伊豆の国市の大仁駅近くで、新たに日本語教室を始めている。

5. 西村さん 三島市在住 GGA 沼津校に勤務（10月開校）

地域から問い合わせが色々来る（留学生だけではない問い合わせ）

→東部ネットワークに入っていてよかったと思っている。

入管法改正で留学生の基準厳しくなっている

6 裾野市多文化教室 佐野さん

20年やっている。中学生以上を受けている。

現在16名ボランティア 日曜日10:00-11:30

インドネシアが減って、今はベトナムが主流（技能実習生）

長泉・裾野・御殿場 随時やっている教室がない。

塚原新田からきて来る人もいる、みんな遠くからきている（雨降ると来ない）

平日仕事をしているが、週末の朝もアルバイトをしている（芋とシイタケの販売）

教室というよりは話そう会のような感じ、日本文化（七夕・折り紙・お茶摘み・お習字等）も一緒にやっている。忘年会もボランティアの有志で、無料でやっている

ネパールの男の子 全く話せない 親がカレー屋さんをやっている

→半年たって、意思疎通ができるようになった

→来年の1月から富士宮のACCに行くらしい

7. 香川さん 函南町

函南町では都市交流協会の名称で30年近く国際交流と親善に関する事業を実践してきた。

現在は、米国カーマン市との相互訪問、英語教室、親善パーティー、料理教室、町民のための講演会（サロン）という活動をしている。事業活動はもっぱら在住外国人への支援というよりも姉妹都市交流（3年毎）が中心となっている。

在住外国人に対する支援；

函南町には約 400 名程度の外国人（インドネシア・フィリピン・中国・台湾・ミャンマー等）が住民登録している。ただ在住外国人の困りごとなど行政も実態を把握していないようだ。

日本語教室の運営について、

かつて日本語教室を開いたが生徒が来なくなり、この事業は中止されたと聞いた。今年の協会の総会でカナダから帰国した女性から、息子さんが日本語で困っている所以で支援が欲しいと訴えがあり、私自身がその必要性に関心を持ち現在伊豆の国市「日本語話そう会」に通って勉強中。日本語教室開催の要望が不明なこと、函南町内でボランティア指導者がどれほどいるのか、教室運営のノウハウや教材の準備など課題があり、設立には慎重になっている。

以上、 皆さんからいろいろと教えてほしい

影山

香川さんと同じ印象を函南町で感じている。

日本語空白地帯を埋めようとする文化庁の助成金もある、有効活用できないか？

外国人の人数だけでなく、「在留資格」まで見てほしい（古橋さん）

助成金は市にとっては書類作成が面倒だろう草の根的に始めるのが大事（古橋さん）

→伊豆市の山口さん 業を煮やしてはじめられた

退職教員互助組合に声をかけるとみつきやすいかも（望月さん）

8. 沼津市

高澤さん 沼津国際交流協会・ふじのくに多文化共生ネット・多文化共生ボランティア（資料あり）

・1-2回/月 沼津国際交流協会ではボランティアで教えている

新人のボランティアのための研修もやっている

日本語教室の会場として利用している図書館の「図書館ツアー」を予定している（1/12）

ボランティア44名在籍 15名が毎回交代で出ている

最近、新しい日本語ボランティアが増えた 若い人が多い

実習生も来ている 最近ベトナムの方が多い

実習生の方は「みんなの日本語」の初級が終わって自由会話グループに入ったりしている

・沼津市主催「外国人のための防災訓練」に沼津市多文化共生ボランティア（災害時外国人支援ボランティア）として参加した

外国人約50名が参加したが、生活者としての外国人は1~2名だけ

GGAの学生が二十数名、研修生を受け入れ・派遣している会社から二十数名参加した

・9月8日(土)・9日(日)に開催された文化庁日本語教育大会の東京大会、10月13日(土)・14日(日)に開催された文化庁日本語教育大会の京都大会に、ふじのくに多文化共生ネットとして参加した。

・5月26日(土)・27日(日)に開催された日本語教育学会春季大会と、11月24日(土)・25日(日)に開催された日本語教育学会秋季大会に、沼津高専の日本語講師として参加した。

- ・11月25日(日)日本語教育学会秋季大会<地域発信企画 in 静岡>でふじのくに多文化共生ネットとして『「地域との連携」＋「外国人コミュニティとの連携」をめざして』というタイトルで発表した。のびっこクラブみしまの石井さんも日大アモールと一緒に参加して発表していたテーマが『地域に根ざした安心・安全な町づくりのための取り組み』と決まっていたので、ふじのくに多文化共生ネットが実施した「プチウオーク NUMAZU 再発見!」という街歩きイベントを例に「安心・安全」に焦点を当てて活動紹介をした（詳細は配布資料参照）
ふじのくに多文化共生ネットでは「プチウオーク〇〇再発見!」を共催してくれる団体を募集しており、配布資料には書いてないが、予算は、参加者30名、参加費ひとり500円で、15,000円～20,000円（保険・参加記念品込み）＋会場費

資料

- 1枚目：前回の議事録の修正版・活動報告
- 2-3枚目：日本語教育学会秋季大会2018での「ふじのくに多文化共生ネット」の発表内容

9. 三島市

石井さん のびっこクラブ（資料あり）

7月からのイベント

- ・七夕
- ・ハロウィン
- ・グローバルフェスタ
- ・真冬の大運動会

発達障がい、進学問題、家族の問題など多様化…研修会に参加して情報収集

10月30日 外国人の子ども支援関係者ネットワーク会議で事例発表「連携と継続支援」

11月25日 日本語教育学会 「安心」「安全」がテーマだったので防災教室を発表

- ・「やさしい日本語」ワークショップ
- ・グローバルフェスタで「やさしい日本語」WSについて伝えた

近況 3つ

① 技能実習生とのバランスについて

子どもを対象にしていたが、教室が空いているのであればと実習生を受け入れてきた

日によっては実習生のほうが多くなってしまうことが起きてきている

日大アモールの意見 会員でも話し合い

→結論：会則は変えずに「子どもを主」でやっていこうということとなった

② 子どもについて

アジアからの家族滞在が増えている。父親が企業勤務か企業経営

母国で義務教育を終えて、呼び寄せている

中学校を断られて、高校受験を目指している

定住者で帰化している家族も 1990年以降来日の日系人 子どものことを考えて帰化

大学合格：日大国際関係学部合格

③ 国会で扱われていることに関連して

夏以降 三島市議から問い合わせが入っている 市議が関心を持ってくれるようになった
11月市議の定例会 外国人の子どもの支援を一般質問で出してくれた

10. 大仁町 山口さん（事前メール）

土日はカフェをやっているので来られない

6月26日開始 毎週木曜 外国人3~10名、支援者3名以上

多くの外国人が会話を求めています 職場では日本語を話す機会がない

「自主防災」「地域交流」「ネットワークづくり」多方面から支援できている
大仁の教室に来ている人の友人（三島在住）の外国人からの問い合わせに答えている

12/22 餅つき、異文化交流予定

2019年6月 伊豆の国市の行政行事に皆で参加できそうです

東芝テック、土屋建材、TOSEI、ID、ALT、外国人家族など、参加者増加傾向

ボランティアは伊豆学研究会を通じて多方面の方々にひろまりつつある

11. 虎谷さん 沼津国際交流協会 多文化共生ボランティア(沼津)

親子にほんごひろば 最近参加者が少ない→イベント開催（1月27日 かるた大会）

静岡県教育委員会 義務教育課 日本語支援コーディネーター

小学校・中学校の連携から 高校への連携へ

高校への訪問 高校の先生が中学校との連携が必要という認識を持ってきている

清水町 町として取り組み

清水西小学校 1割が外国人児童

定住して納税者になってほしいと町は考えている

今後、清水町がモデルになっていくといい